

ドキュメント60日
ヨタカの砂浴び場の前で



吉村 正則

はじめに

- ヨタカの生態について不明なことが多いのは、夜行性であるために調査者の負担が多く、調査が進んでいないことが一因と考えられる。最近ではトレイルカメラの普及で、警戒心が強かったり、夜行性の動物等、目視では調査が不可能な生物の調査に用いられている。
- ヨタカの砂浴びに関する単発的な報告はあるが、継続的な研究事項は国内外とも見当たらない。こうしたことから香川県まんのう町にトレイルカメラを設置してヨタカが砂浴びに来る様子を記録した。このような記録の蓄積は、ヨタカの生態を把握するための重要な基礎資料となるため報告する。

概要

- 当地でのヨタカは4月下旬～10月中旬頃まで見られる。
- 夜行性で個体数も少ないので、目視での行動観察は日の入り後や日の出前の僅かな時間に限られて、夜間の定期的な観察記録は無い。
- 過去の経験などから香川県まんのう町の伐採地跡(標高735m)でヨタカの砂浴び場を見付けて、2024年7月20日～9月21日までトレイルカメラ(メーカー不詳)をセットすると合計2513秒映り、288回の砂浴びを記録された。ヨタカが現われたり、砂浴びをした時間帯、関連する気象条件などを分析した。
- トレイルカメラは日没後～日の出まで、動物が来ると1分間録画のスイッチが入るようにセットした。
- データ回収は1回/1～2週間間隔で行った。なお、データ回収時にはカメラのタイムスタンプが正確かどうかを確認した。
- ※砂浴び1回＝体を沈めて、左右の翼で砂を振るった状態をカウントした。

ヨタカの砂浴び場(2020年7月)



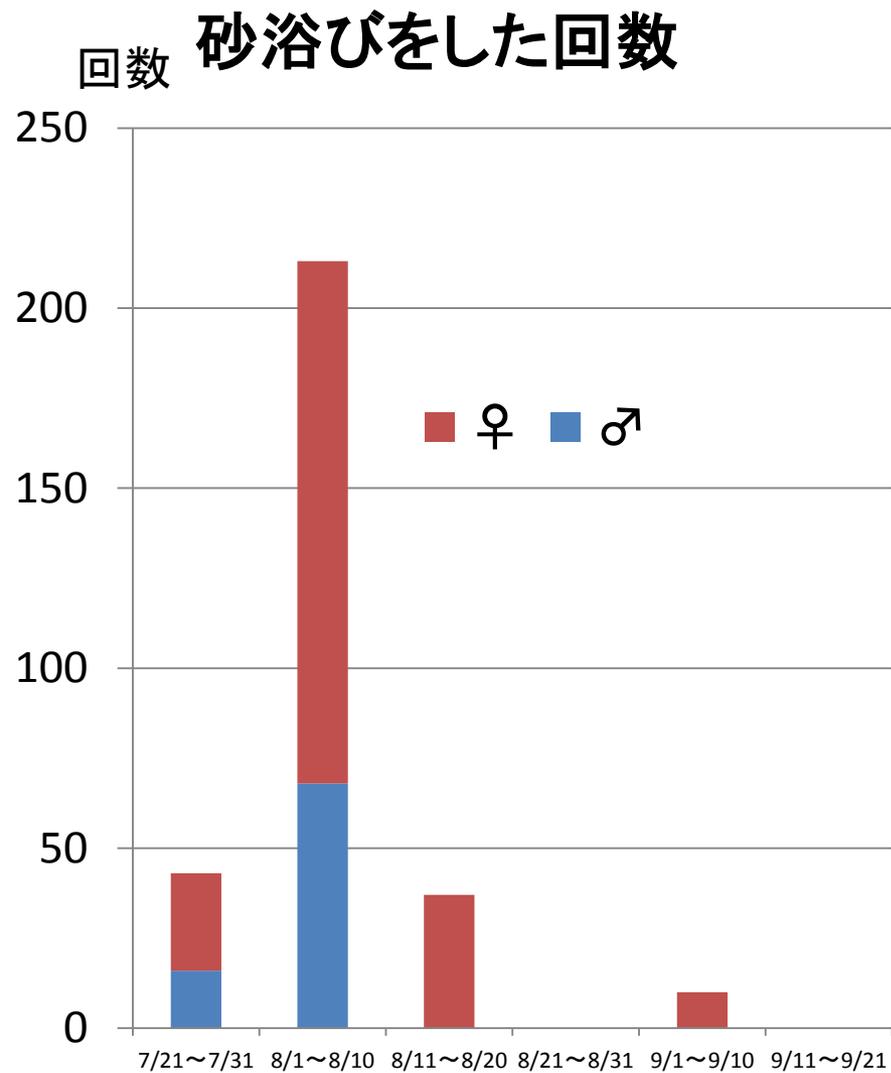
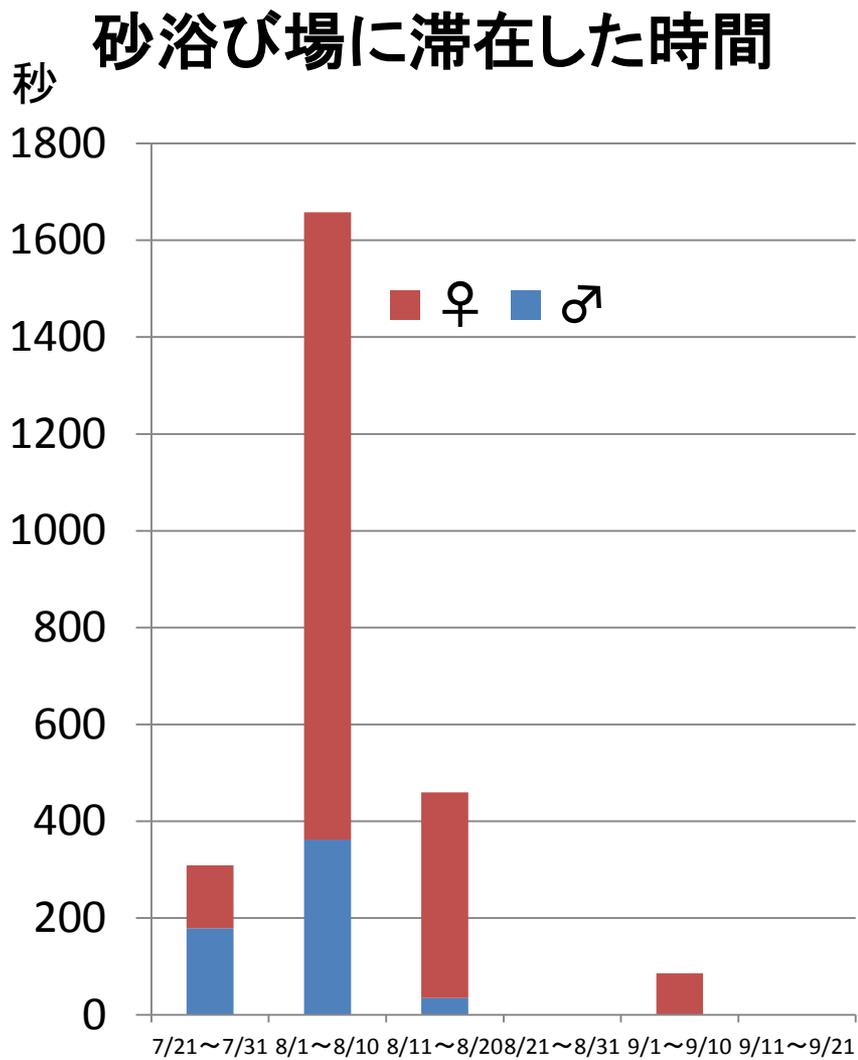
砂浴びをしている様子(2024/07/28)



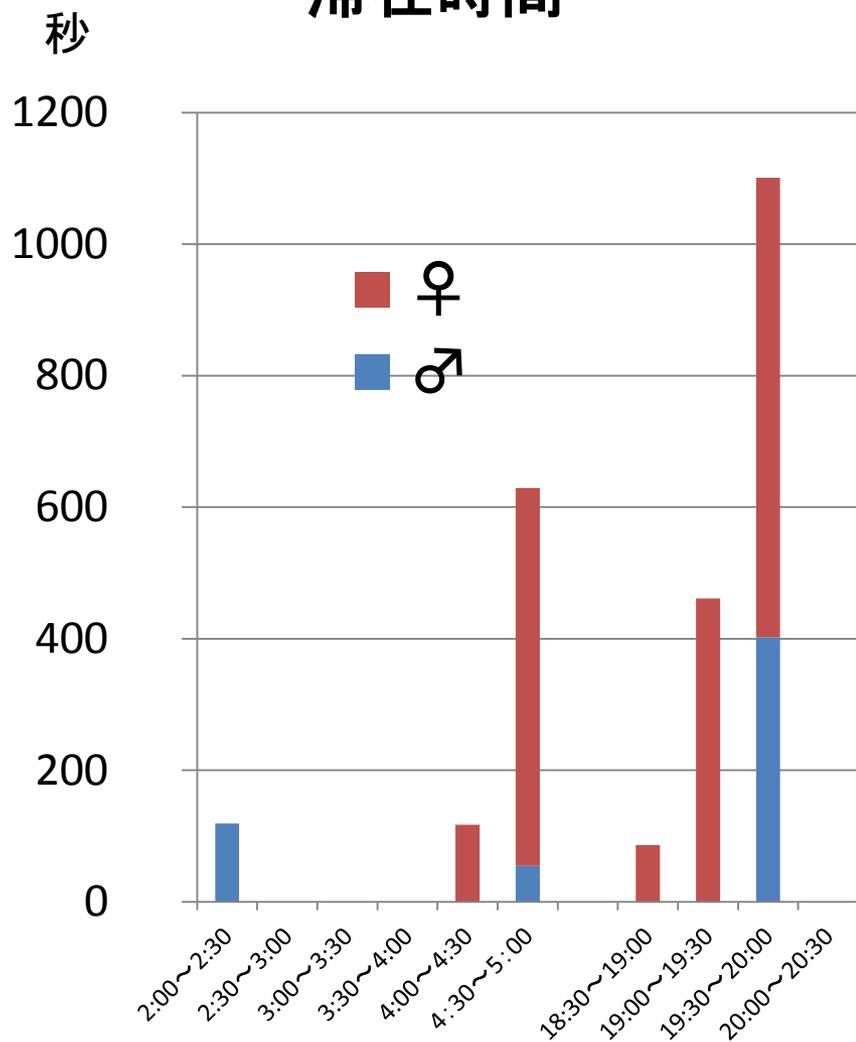
結果① 砂浴びの概要

- ・ 砂浴びは60日間のうち14日観察され，計288回（計2513秒）の砂浴びを記録した．
- ・ 砂浴びに現れたのは，ほとんどが日出前か日入後の15-45分間で，内訳は日入後だけが9日，日出前だけが4日，両方観察されたのが1日だった．

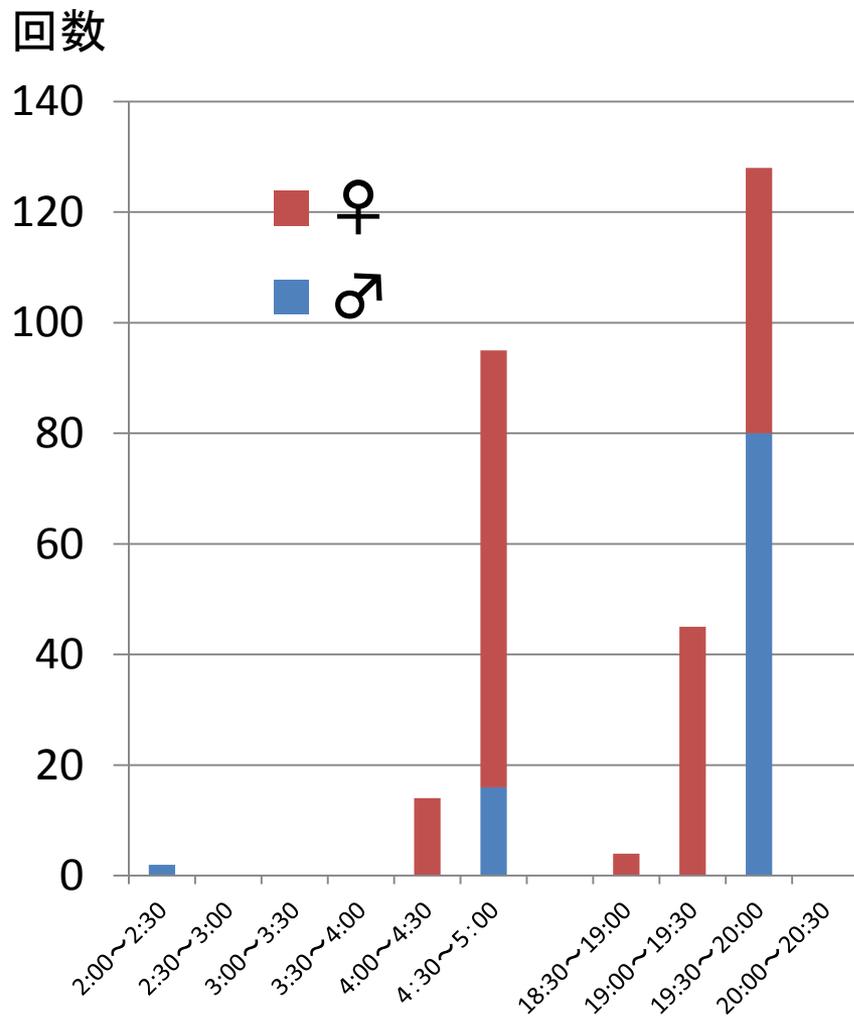
	砂浴びの回数	滞在時間
雌雄比	♂ : ♀ = 98 : 190回	♂ : ♀ = 576 : 1937秒
1日あたりの平均	20.6回（0-62回）	180秒（7-554秒）



滞在時間



砂浴び回数

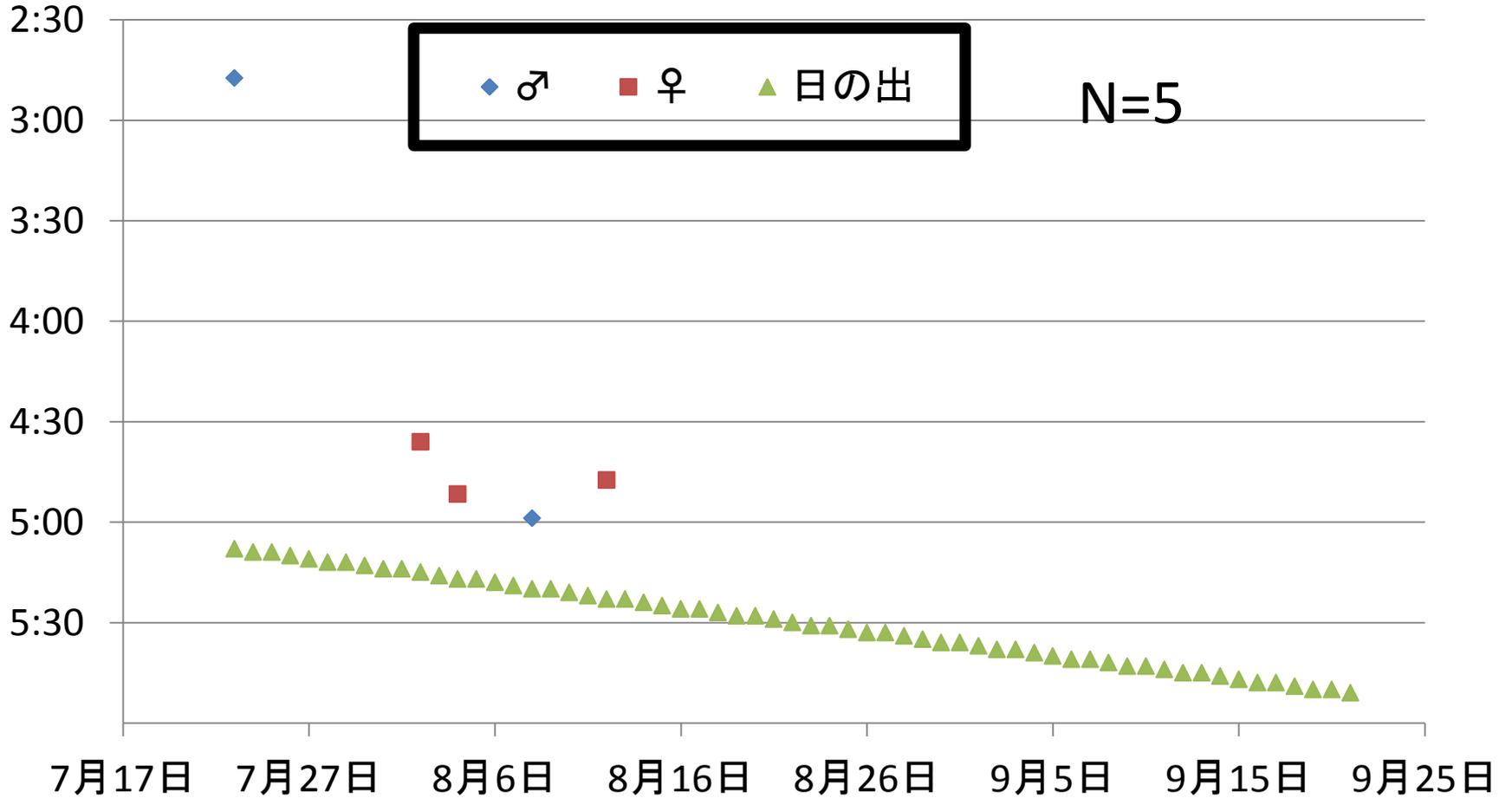


結果② 気象条件との比較

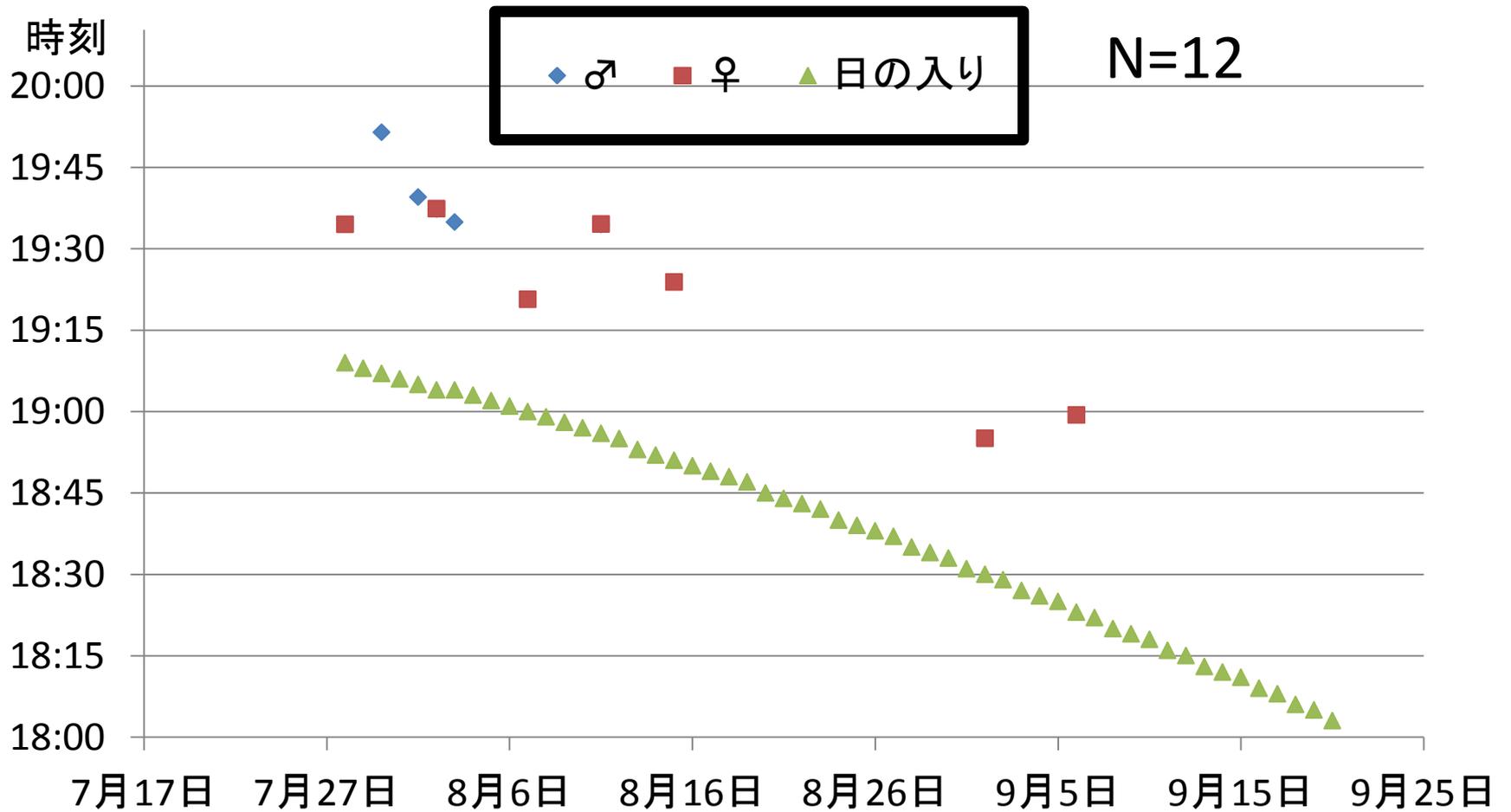
- 雨天の際には砂浴びが観察されなかった（砂浴び場に姿を現さなかった）。
- 日出前は日入後よりも湿度が高かったが、砂浴びが観察された。
- 滞在時間と砂浴び回数はある程度比例するが、地面の湿り具合で砂浴び回数は減る傾向にある。
- 晴天が続いても必ずしも砂浴び場に現れるとは限らない。

砂浴び場を去った時間(日の出)

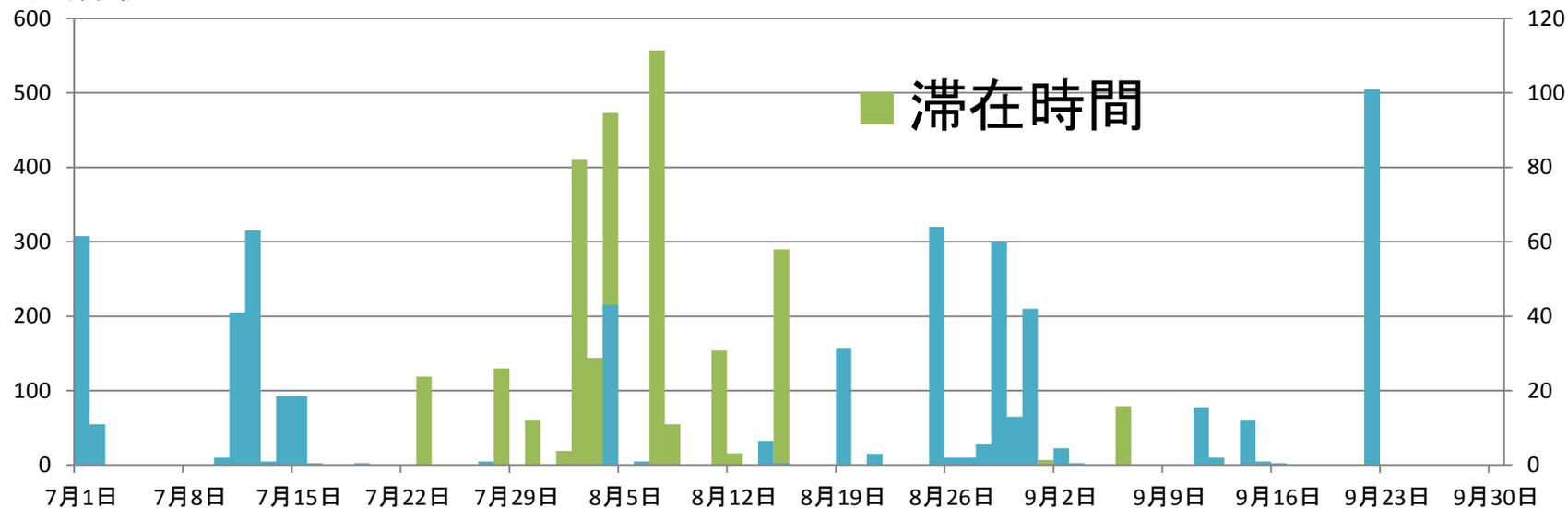
時刻



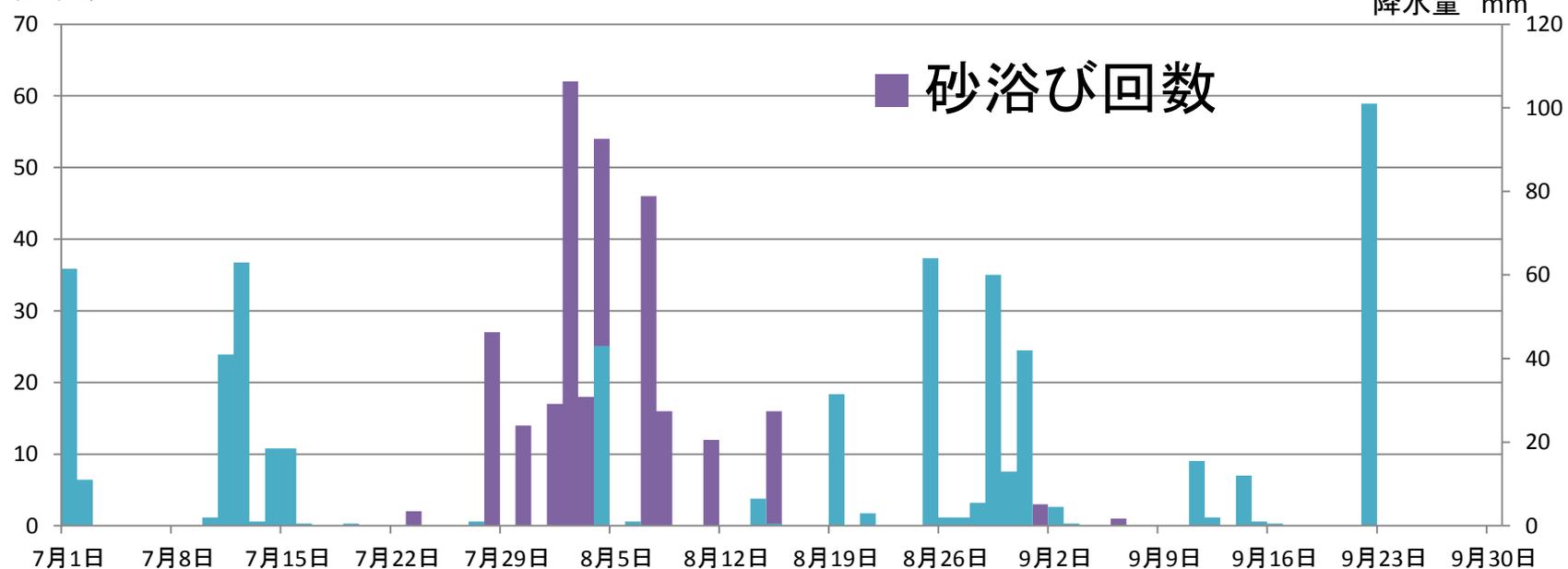
砂浴び場に現れた時間(日の入り)

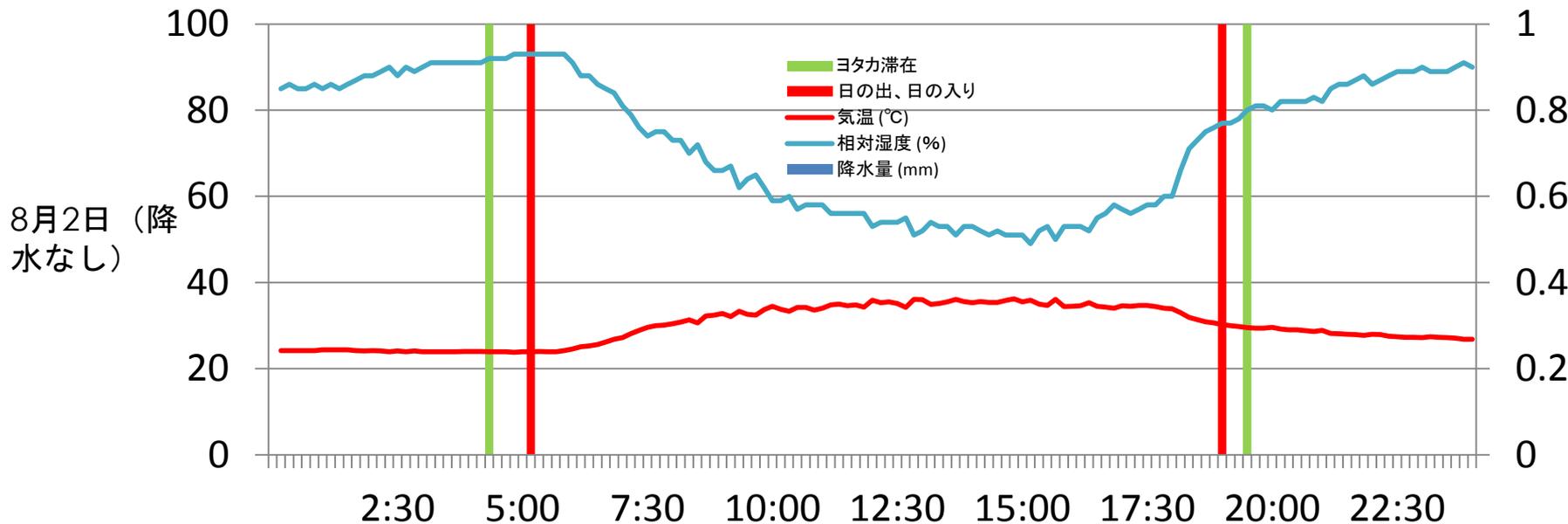


ヨタカ滞在秒



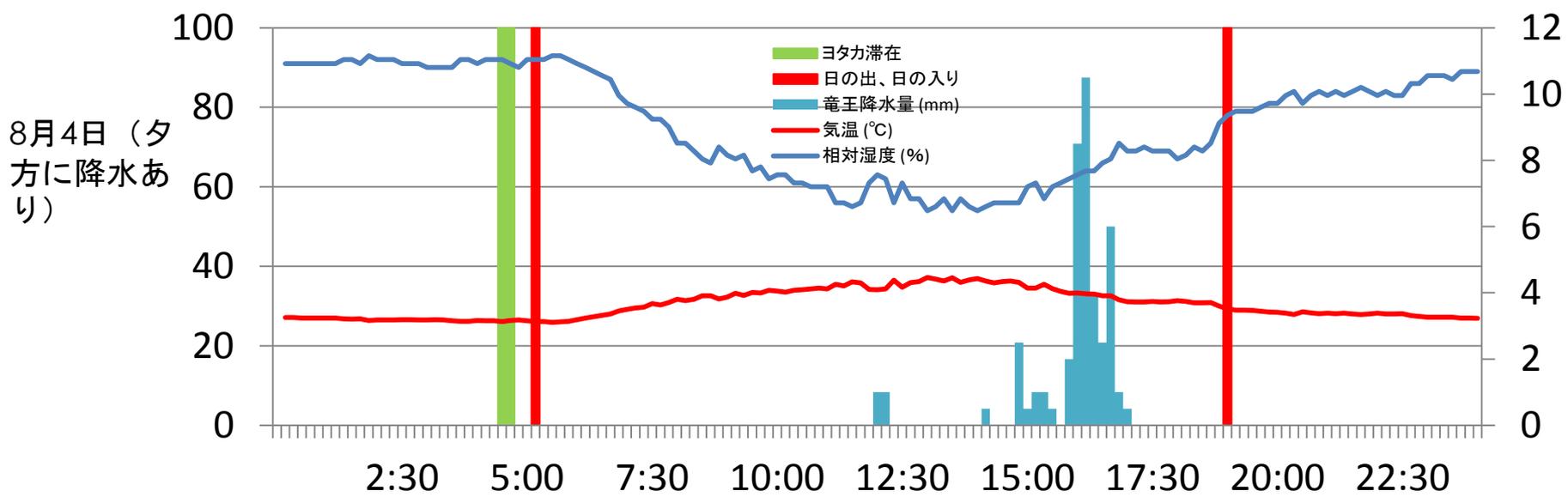
砂浴び回数





相対湿度

降水量



まとめと考察① 日周性

- ヨタカの砂浴びは日周性を示し，天気の良い日が続いた日出前と日入後30分前後が多い傾向が見られた.
- 砂浴びの時間帯が日周性を示した理由として，次の要因が考えられる.
 - (1) 日没後は夜間の内で最も地面が乾燥しているため
 - (2) 日出前に砂浴びをするのは，昼行性の鳥が就眠前に水浴びをするのと同じなのかも知れない.

まとめと考察② 砂浴びの有無

- ・ 観察期間中に砂浴びに来なかったのは、降水があった後や8月中旬以降の傾向が見られた。
- ・ その理由として次の要因が考えられる。
 - (1) 降水により地面が湿っていたり、晩夏になると日差しが弱くなり、降雨の後の地面の乾きが悪くなるため
 - (2) 砂浴び場所を何か所か持っており、季節変化や繁殖終了によって利用場所を変えているため
 - (3) タヌキやテンといったヨタカの捕食者が近くに現れていたため

最後に

- 今回は1年だけのデータであるが、ヨタカの生態を把握するための重要な基礎資料となるので、可能ならば継続的にデータを集めたい。